



2011年度国立音楽大学音楽研究専修 研究発表会
(音楽研究コース、音楽情報・社会コース) 専門ゼミⅠⅡ

『フランス革命下の音楽』

- ・ 2011年11月25日(金)
- ・ 国立音楽大学 6号館 110スタジオ

●図書館テーマ展示●

期間：2011年11月7日～12月9日

展示場所：図書館ブラウジングルーム

フランス革命下の音楽

2011 年度国立音楽大学音楽研究専修 研究発表会
(音楽学研究コース、音楽情報・社会コース) 専門ゼミ I II

★研究発表会

日時：2011 年 11 月 25 日(金) 16 時 30 分より

場所：6 号館 110 スタジオにて

-目次-

はじめに	2
革命下のコンサート	2
革命祭典と革命歌	2
革命下のオペラ	3
音楽教育革命	3
展示資料	4

【はじめに】

皆さんは、音楽と政治という二つの事柄を結びつけて考えたことがありますか？「政治って聞いただけで頭が割れそうだ」とか、「そんな小難しいこと考えなくても、音楽は音楽だし」と考えたそのあなた！実はこれらの事柄には、密接かつ重要な繋がりがあるのです。

今回私たちゼミ生一同は「音楽と政治にはどんな繋がりがあるのだろう」という疑問を出発点として、「フランス革命下(1789-1799)の音楽」というテーマに辿り着きました。フランス革命は、民衆によってそれまでの政治形態であった絶対王政が打倒され、政治的にも社会的にも近代化が進んでいく大きなきっかけとなった出来事です。にも関わらず、私たちはこの大変動の時代にどのような音楽が好まれ、疎まれ、そしてどういった音楽状況だったのかについて、ほとんど何も知りませんでした。

政治的大変動を迎えた時期の音楽状況を知りたい、という理由で決まった「フランス革命下の音楽」というテーマ。「小難しいことは嫌だ」などと敬遠せず、この機会に私たちと一緒に考えてみませんか？

【革命下のコンサート】

パリにおけるコンサート活動は、旧体制末期には非常に活発なものとなっていました。音楽は社会のあらゆる身分階層に浸透し始め、「公開で有料のコンサート」という発想が少しずつ芽生えてきていたのです。

しかし、フランス革命の勃発により、コンサート活動は一時的とはいえ衰退しました。革命期、音楽は革命を推進する方向へ民衆を煽動するための重要な手段の一つとして共和主義者たちに提えられており、「政治的意図や目的をもたない」コンサート活動は存続が難しかったのです。

どれほど音楽好きの人でも、頭上を砲弾が飛び交うなかで、自分の楽しみのためだけにコンサート活動を存続させることは不可能でしょう。つまり、コンサート活動のようなタイプの音楽が発展するためには、社会の安定が必要不可欠だったのです。

【革命祭典と革命歌】

フランス革命勃発時、民衆は事あるごとに祭典を実施しました。祭典とはその名のとおり「祭り」であり、革命が起きた時、民衆は自らが結束する為に祭典を行っていたのです。楽隊を先頭に、民衆は会場まで行列を作り、会場では全員で革命歌を歌いました。

祭典には、身分や性別、年齢に関係なく多くの人々が参加しており、例えば政治家、兵士、農民などの姿が見受けられたようです。祭典とはまさにフランス革命のスローガン「平等」と「自由」を伴った集まりでした。祭典を数多く開くことで結束した民衆は「絶対王政」という強大な権力に対抗することができたのです。

祭典で歌われた革命歌は、いわば「歌う者の心をつなぐ歌」とでもいえる存在でした。革命歌は、いつでもどこでも、誰でも歌える歌となるべく、単純で覚えやすいものである必要がありました。革命歌の普及には、この時代に印刷技術が発展し、農民、つまり後の義勇兵の識字率が上昇していたという背景が大きく関係しています。パリに進軍する義勇兵達の中で歌われたからこそこの革命歌なのです。革命歌は、同じメロディーの繰り返しであったり、歌詞がわかりやすくなければ広まらず、また、進軍用の歌であるために2拍子系で、行進のテンポでなければなりません。専門教育を受けた音楽家ではなく、民衆が演奏者となる革命歌においては、わかりやすさこそが何よりも大切だったのです。

これらの革命歌の例として最も有名な曲は、《ラ・マルセイエーズ》でしょう。《ラ・マルセイエーズ》を作曲したのは、フランス軍の中尉であったクロード・ジョゼフ・ルジェ・ド・リールです。この曲は作曲されてからすぐに各地方に広まり、1795年7月14日には国歌に制定され、現在でも歌われています。

フランス革命において、革命歌は民衆へ音楽をもたらしました。民衆は、革命歌を支えとして戦場へ臨み、革命を成し遂げたのです。

【革命下のオペラ】

ルイ 14 世以降のフランスで盛んであったオペラにも、フランス革命の影響が現れました。その中でも特にオペラ・コミックというジャンルにおける変化は著しいもので、このことは作品数、内容などから見てとることができます。この理由には、革命期の政府が演劇を通じて愛国的士気を高めることが有効であると考え、これを奨励したこと、もう一つにはフランス革命期という同じ時期に、二つのオペラ・コミックのための歌劇場——オペラ＝コミック座とフェドー座——が華々しい活動を展開し、互いを高めあっていたこと、これら二つがあります。

オペラ・コミックは、パリ市内の定期市場で行われていた下層階級を対象としたどたばた喜劇からはじまったとされています。オペラ・コミックの作品数や内容の変化は、フランス革命によって中・下流階級の立場に変化があったことによるものだということができるでしょう。

対して、革命による上流階級の衰退は、パリ・オペラ座に大きな影響を与えました。オペラ座は、かつて王の庇護下にあり、パリ市に経営権が譲られたのちも大きな権力を行使していました。しかしフランス革命期のオペラ座は、ヴェルサイユ宮廷の影響を強く受けた革命以前の演目内容を取りやめ、革命政府の顔色をうかがいながら、細々とした活動を行わざるを得なくなったのです。

【音楽教育革命】

旧体制下のフランスでは、学問における公的な教育に関心が向けられることはありませんでした。音楽教育も例外ではなく、一部のごく限られた人間しか専門的な音楽教育を受けることはできませんでした。旧体制下での音楽教育は、主としてメトリーズ(王立歌唱学校)という、基本的に教会に携わる音楽家を育成するための機関が行うべき事柄だったのです。

ところが、革命期の教育では、自由と公教育というものに論点が向けられました。教育学という面から見ると、フランス革命は「公教育の革命」なのです。公教育化を求める革命の風潮のなか、国民公会の法令によってパリ音楽院が創立し、メトリーズが廃止されました。フランス革命によって成し遂げられたパリ音楽院の創立は、音楽教育の公教育化を果たしただけでなく、19 世紀ヨーロッパや欧米諸国の音楽学校のモデルとなっていくのです。

1789-1799 年という 10 年間の音楽が、どれほど政治的影響を受けているかについて実感していただけたでしょうか？ 研究発表会当日には、当時流通していた楽譜などと共に、これらの事柄 + α についてより詳しくご紹介いたします。ひょっとすると、実演コーナーもあるかも・・・!?「研究発表会」という名称に身構えずに、どうぞお気軽にお越し下さい。

展示資料

《パネル》

サロンの光景

出典：図説フランス革命 / 芝生瑞和編著。－ 河出書房新社，1989(請求記号●J63-675)

身分に関する風刺画

出典：図説フランス革命 / 芝生瑞和編著。－ 河出書房新社，1989(請求記号●J63-675)

コンサートのプログラム 1779

1779年2月2日にテュイルリ宮で開かれた「コンセール・スピリチュエル」第990回目のチラシ。ハイドンの交響曲、カンデイユのモテット、ふたつの狩猟ホルンによるコンチェルトなど、様々なジャンルの曲が一夜のコンサートで演奏されていたことがわかる。

出典：Histoire du Concert spirituel / Constant Pierre.. － Société française de musicologie, 1975 (請求記号●C26-238)

連盟祭

1790年7月14日に行われた連盟祭の様子である。バスティーユ占領の1周年として行われていて、初めて公の場で開催された祭典である。その為、フランス革命史の中でも重要視されている。真ん中に祭壇があり、その周りに国民衛兵、端の客席には多くの民衆がいるのがうかがえる。現在でもこの日は祝日となり、祝祭が行われている。

出典：図説フランス革命 / 芝生瑞和編著。－ 河出書房新社，1989(請求記号●J63-675)

最高存在の祭典

1794年に行われた最高存在の祭典の様子である。連盟祭と比べ、祭典は大きく発展していて、多くの革命歌が歌われた。

出典：図説フランス革命 / 芝生瑞和編著。－ 河出書房新社，1989(請求記号●J63-675)

ラ・マルセイエーズ楽譜

フランス革命時に盛んに歌われた《ラ・マルセイエーズ》の楽譜である。この曲は当時最も有名だった革命歌の1つであり、多くの民衆に歌われた。現在はフランス国歌に制定されている。

出典：図説フランス革命 / 芝生瑞和編著。－ 河出書房新社，1989(請求記号●J63-675)

作曲風景

《ラ・マルセイエーズ》の作曲風景。作曲者であるルジェ＝ド＝リールは、ヴァイオリンを持つとまるで何かに取り付かれたように作曲したという。

出典：ラ・マルセイエーズ物語 / 吉田進著。－ 中央公論社，1994(請求記号●C58-922)

革命期のオペラ座

1789年のパリ市民にとっては、「オペラ座」は宮廷の保護下にあったことで特権階級の象徴であった。したがって、この年の7月12日、つまりバスティーユ Bastille 監獄陥落の二日前には、敵意を燃やした市民たちによって閉鎖されるに到った。最後の公演には王の家族も列席していた。

出典：パリ・オペラ座 / 竹原正三著。－ 芸術現代社，1994(請求記号●C58-869)

オペラ・コミックの生まれた場所

1500年代のサン・ジェルマン Saint-Germain 市の定期市。左手下の隅には、小屋掛けの中で綱渡りをしている芸人たちの姿も描かれている。オペラ・コミックはこうした庶民の集まる場で、大道芸の一つとして始まったとされている。

出典：世界オペラ史 / レズリイ・オーリイ著。－ 東京音楽社，1991(請求記号●C54-692)

オペラ・コミックの元祖

1756年、サン・ロラン Saint-Laurent 市の定期市の「市場座 Theatre de la Foire」の上演風景。青空の下で芝居が上演されている。

出典：世界オペラ史 / レズリイ・オーリイ著。－ 東京音楽社，1991(請求記号●C54-692)

31-5-12, Conservatoire de Paris (démolition) : [photographie de presse] / [Agence Rol]

出典：<<http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b6918032k>>

《書籍》

今谷和徳,井上さつき著『フランス音楽史』

春秋社, 2010 請求記号●J117-580

本書はフランス革命時の音楽だけではなく、シャンソンやルイ 14 世時の音楽など、中世から現代までのフランス音楽を網羅している。それぞれの歴史背景を絡めながら詳しく書かれている。

大田黒元雄著『歌劇大事典. 増補版』

音楽之友社, 1974 請求記号●C54-185 他

オペラに関する総合的な事典。1962年に初版が出版され、本書はその増補版。オペラの作曲家、歌手、指揮者、台本作者、評論家、歌劇興行者、歌劇団、劇場、音楽祭、歌劇に関する用語、有名なアリア、歌劇に現れる舞曲、歌劇の題材になった戯曲および小説とその作者など、広範囲にわたる項目を含む。

レズリイ・オーリイ著；ロドニイ・ミルズ補筆改訂；加納泰訳

『世界オペラ史：その誕生から現代まで』

東京音楽社, 1991 請求記号●C54-692

本書では、ただ単に年代順に従って区切り線を引かずに、それぞれの国でのそれぞれのオペラの発展の様子を、必要なだけの細目を示して紹介している。

ニール・ガスロー編；樋口隆一監訳『西洋の音楽と社会. 6, 啓蒙時代の都市と音楽：古典派』

音楽之友社, 1996 (Man & music) 請求記号●C60-958 他

本書は「西洋文明の歴史のなかで、ある特定の土地においてある特定の時代を通じて、音楽がどのように発展したかを考察する」（序文より）目的を持つもので、考察する土地と時代を細かく限定した我々の研究発表に大きな助けとなった一冊である。

芝生瑞和編著『図説フランス革命』

河出書房新社, 1989 請求記号●J63-675

図版を中心にフランス革命の歴史について説明している。

竹原正三著『パリ・オペラ座：フランス音楽史を飾る栄光と変遷』

芸術現代社, 1994 請求記号●C58-869

パリ在住 30 年の筆者のヨーロッパ・オペラ情報は定評があり、今回多年の知識、体験をあげてパリ・オペラ座 320 余年の歴史と見聞を集成した稀有の書。繁栄のオペラ座に登場する歌手、指揮者、支配人の活躍、興亡を語りフランス音楽史の中心の実態を展開。

立川孝一著『フランス革命と祭り』

筑摩書房, 1988 (ちくまライブラリー ; 19) 請求記号●J63-593

フランス革命の中でも革命祭典を中心に書かれている。なぜフランスで祭典という文化が生まれたのか、その根本から祭典の発展の経緯までを網羅している。

アデライード・ド・ブラス著；長谷川博史訳『革命下のパリに音楽は流れる』

春秋社, 2002 請求記号●J97-203

フランス革命時の音楽について、当時のシャンソン、劇場、革命祭典、音楽教育に焦点を当てて書かれている。

松島鈞著『フランス革命期における公教育制度の成立過程』

亜紀書房, 1968 請求記号●J15-517

松田智雄著『音楽と市民革命：市民共同体の基盤の上に』

岩波書店, 1985 請求記号●C17-330 他

吉田進著『ラ・マルセイエーズ物語：国歌の成立と変容』

中央公論社, 1994 (中公新書) 請求記号●C58-922

現在フランスの国歌となっている《ラ・マルセイエーズ》について書かれている。作曲背景や国歌に制定されるまでの経緯などを網羅している。

アレグザンダー・リンガー編；西原稔監訳

『西洋の音楽と社会. 7, ロマン主義と革命の時代：初期ロマン派』

音楽之友社, 1997 (Man & music) 請求記号●C61-491 他

西洋音楽史を網羅したシリーズ、第 7 巻。ヨーロッパ史上最も激しい動乱の一つ、1789年のフランス革命から 1848 年までの一連の変動は、音楽文化に対しても衝撃を与えた。時代に生まれ、時代と闘った芸術家たち、音楽状況をえがく。

《雑誌》

海老澤敏「パリ音楽院創設とその余興-フランス革命が切り托いた道」

『音楽芸術』1989年7月号 [pp.24-35] 請求記号●P0639/47(7)

1791年、カトリック制度の廃止活動を受けて、フランスの教会における聖歌学校及び聖歌隊であるメトリーズが廃止になった。歴史は古く、14～15世紀までさかのぼることができ、音楽と一般教育も行った。革命以来廃止され、今日ではただ聖歌隊を意味する。

パリ音楽院はフランス革命の最中、1795年に成立した。フランスの伝統を守ることを掲げ、メトリーズのような宗教音楽教育とは対極的な意味で作られたのである。しかし、実際のところメトリーズの教授陣はパリ音楽院に合流している。このパリ音楽院の教育形態は、その後世界中に設立されるコンセルヴァトワールの規範となった。

メトリーズ廃止後、1795年、ラ・マルセイエーズが国歌として制定されるのとほぼ時を同じくして「パリ国立音楽院」がサレットらを中心に創立された。

パリ音楽院は115名の芸術家から成る。メトリーズと異なり、法律で細かいところまで決められた。また、パリ音楽院創立当初の専門分野や、教授数などパリ音楽院に関する詳しい事柄が書かれている。

《録音資料》

“La revolution francaise”

Paris : Disques Ades, p1989 請求記号●XD7593

革命歌が収録されているが、その合間にフランス革命時の音楽をフランス語で説明している。

Rouget de Lisle... [et al.] “Revolution francaise”

[France] : EMI, p1988 ; [東京] : 輸入・発売元: 東芝 EMI, 1989 請求記号●XD7295

当時流行した革命歌と、ゴセックによる管弦楽曲を収録している。

Fran ç ois-Joseph Gossec “Symphonies”

Colchester, Essex, England : Chandos, p1998 請求記号●XD40841

ゴセックの交響曲が収録されている。フランソワ・ゴセックは交響曲や革命歌を多く作曲し、当時人気の作曲家であった。

“La revolution en chantant”

France : TLP Records, p1989 ; [東京] : 発売元: ANF コーポレイション 請求記号●XD7720

当時流行した革命歌と、ゴセックによる管弦楽曲を収録している。

“Révolution fran ç aise : “La Marseillaise””

[S.I.] : EMI ; [Tokyo] : Toshiba EMI[distributor], p1988 請求記号●XD7735

当時流行した革命歌と、ゴセックによる管弦楽曲を収録している。

Cherubini “Les deux journées”

Paris, France : Opus 111, p2002 請求記号●XD51378

《Les Deux Journées 二日間》 マリア・ルイーゼ・ケルビーニ作曲、ジャン・ニコラ・ブイイ作詞。

「担水夫」としても知られている。3幕からなる歌劇で、フランス革命期に流行した、救出オペラの一つ。1800. 1. 16. パリ・フェドー座初演。

Cherubini “Lodoiska”

[Tokyo] : Sony classical, 1991 請求記号●XD15389-15390

《Lodoïska ロドイスカ》 マリア・ルイーゼ・ケルビーニ作曲、クロード・フィレット＝ロー作詞。

同題名で幾人かの作曲家、作詞家が作品を残している。3幕からなる歌劇で、救出オペラの一つ。1791. 8. 1. パリ・フェドー座初演。この「救出オペラ」というジャンルは、のちのペーターヴェン《レオノーラ》、ロッシーニ《泥棒カササギ》にも影響を与えているが、現在演奏される機会は少ない。

●展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2011/11/11 編集●国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 二塚恵里・撰正弘